

総合的な学習の時間 「研究の実践」

■5年 課題研究：提言Ⅰ

(1) 概要

高校1年生で履修した「体験グローバル」で学んだ複眼的な視点や、課題研究の方法を活かして、生徒自らの問題意識に基づいて、社会的事象から課題を設定し、グローバルな視点を持って研究を進め、発表し、他者との議論を通して互いに研究を深める活動を行う。提言では、個人研究として研究を進めることと、研究を振り返り、研究のプロセスや考察を再検討したり、新たな課題をみつけたりする段階まで研究を深めることを目標としており、これらの点が体験グローバルとの違いとなっている。

(2) ねらいとする能力・態度

選択コースである点も踏まえ、特に、以下の能力・態度の育成をねらいとする。

- ・問題を発見・解決する力・・・各自の問題意識に従って、自ら課題を設定し、適切な方法で研究を進め、まとめていくことができる。
- ・省察する力・・・研究を各段階で振り返り、プロセスや考察などが複眼的で適切なものかについて問いなおして、改善していくことができる。
- ・表現・議論する力・・・研究の各段階で、的確にまとめて発表し、他者との議論を通して研究を深めることができる。

(3) 授業展開

○「提言Ⅰ」では、「類似のテーマを持つ少人数の班による活動」を中心とする。

○研究の基本は、個人ごとで行う

＝希望調査をもとに、班分けを行う。生徒間の議論のもとで、はじめに設定していたテーマの変更もありうる。班での議論の中で、テーマが同じか類似であってグループ研究にしたほうが深まるようであれば、グループでの研究とする。

○指導教員及び班の中での議論を通して、生徒自ら課題を設定していく取り組みにしていきたい。

特に当初は、内容の指導というより、課題の設定や調べるべきことなどの指導に重点を置く。

○不確かな部分や、どのような調査が必要かなど、指導教員は実現可能な研究課題の設定になるよう担当班の議論に「つつこみ」を入れる。(課題設定、解決の方法などプロセスの指導)

○当初の授業時間はこのような、議論の場にしていく。(夏休みが、研究の時間となるよう、1学期中に課題を明確にする。)

○大学などの研究者を招いて講演会、または各研究への指導を受ける。その際、5年全員の講演会も考える。

○相互評価など多様な評価活動を行う。

(どのような問かけが課題設定や課題研究を進める上で有効かについても研究対象とし、教育課程の開発につなげる。)

○研究を進めるにあたり、「提言」、「合意形成」を以下のように定義・整理する。

提言；新しい方策などの提案にとどまらず、新しい解釈や見方の提案（今まではこのように考えられていたけど、こう見ることもできるなど）もふくめている。また、自然科学的な研究などでは、取り組みの結果、期待された結果がうまくでない場合も想定されるが、その際、適切な方法に基づいた研究結果となっていればその「方法、結果」も提言と考えることができる。

合意形成；「唯一の答えがない（すぐに答えが出ない）課題」について、対立する課題を明らかにして、多面的、総合的に考え、「よりよい解（最適解）」を求めたり、「建設的な妥協点」を探ったりして、合意点を求めること。

※答えのない課題に取り組むため、合意形成に至らない場合もあるが、解決に向けて粘り強く取り組むプロセスを学び、実践しようとする部分が評価の対象となる。

(4) 実施計画 (大まかな日程)

毎週火曜日 7限実施

【主なイベント】

- 5月17日, 31日 広島大学大学院教育学研究科 准教授 松浦拓也先生 講義
「課題研究の課題」, 「データ解析と統計」
- 6月～7月 各自の研究テーマ・課題・方法について, それぞれの班内で討議
- 夏休み 各自で調査
- 9月～10月 課題の再設定と調査 10月25日, 11月1日 班内での中間発表
- 冬休み 各自で調査とまとめ
- 2月14日ころ 全体発表会 3月8日 成果発表会 3月14日 まとめ

(5) 課題研究の指導について

SGHの活動の中で「体験グローバル」「提言Ⅰ」「提言Ⅱ」を中心に課題研究が設定され, 実施している。その課題研究の進め方について, 1つの例として以下のようなモデルを作成し, それぞれの過程において生徒がすべきこと, 教員が生徒の課題研究を促すために投げかけたい問いの例などをまとめた。このモデルを担当する教員で共有し, それぞれの課題研究の指導を行った。

資料 課題研究の進め方(例)と効果的な問いかけ

課題研究のステップ	「提言Ⅰ」の活動との関係	生徒の活動	教師からの具体的な問いなど	体験グローバル 提言Ⅰ・Ⅱ
課題を見つける	ステップ① 問題点の発見	個人もしくは, グループのメンバーが普段の生活で抱えている疑問・関心から課題(研究テーマ)を見つける。	課題を見つける 日常生活に目を向けさせ, その中で自分が抱えている課題を明らかにさせる。 「普段どんなことに興味関心があるか」 「疑問に思っていること, 改善したいと思っていることはないか」	体験グローバル(班による課題研究・個人の課題意識, 興味関心に基づいた課題研究)
問いと目標(ゴール)を立てる	ステップ② 問題点の整理・分類	疑問・関心を掘り下げることで課題研究の問いと目標(ゴール)を明確にする。さらに, 目標についても掘り下げることで課題研究としてすべきことを明らかにする。	問いを導く 日常生活を振り返って見えてきた課題意識を掘り下げることで, 課題意識のポイントを明らかにし, 問いを導かせる。 「なぜ, そのような課題意識をもったのか」 「なぜ, その分野・事象に興味があるのか」 「その課題(問題)は, 何が誰にとって問題なのか」 「なぜ, 問題なのか(なぜ, 解決しなければならないのか)」 目標(ゴール)を導く 問いに対して「どうすれば解決したことになるか」を考えさせることで, 目標(ゴール)を明確にさせる。 「どのような状況になったら, その問題は解決したと言えるか」 「その状況になることで, どのような効果・恩恵もたらされるか」 目標から活動を練る 明確にした目標(ゴール)を掘り下げることで, 課題研究でやるべきことを明確にさせる。 「目標の達成を妨げるものは何か」 →「どうしたら, それは乗り越えられる(克服できる)か」 「自分たちとは違う目標(ゴール)を考える人はいないか」 →「なぜ, その人たちはそのように考えるのか」 →「どうしたら折り合いをつけられるか」 「目標(ゴール)に向かう上で, 犠牲になるものはないか」 →「どうしたら, その犠牲はゼロにできるか」 (多くの人が納得できる犠牲はどれくらいか)	
計画を立てる	ステップ③ 解決に向けた計画	問い・目標に対する答えを導き出すための活動を具体的に示す。 *フィールドワーク・アンケート・インタビューなど	活動を明確にする 解決するために「何が必要か」「そのために何を調べるか」などを意識させ, 情報の収集・分析方法など答えを導くための活動を計画させる。 「同じような問題を解決した事例はないか」 「問題の解決に向けて動いている(考えている)人・組織はないか」 「解決につながる(参考になる)ような事実はないか」	
問いを探求し 答え(結論)を導き出す	ステップ④ 調査・活動	計画で立てた活動を通して問い・目標に対する答えを導き出す。	*これまで列挙した具体的な問いを繰り返す。生徒が導き出した答えの足りない部分(論理の飛躍・視点の欠落など)を指摘する。そのうえで, 必要な場合には問いや目標の設定の段階から見直しをさせる。	
答え(結論)と目標を評価する (振り返り)	ステップ⑤ 結果の活用	答えと目標を客観的に自己評価したり, 発表会を通して他者から評価を受けたりしてここまでの活動を振り返る。	答え(結果)と目標を評価する 答え(結果)が満足できるものであるかを吟味させ, そうでなければ, これまでの過程を振り返り, 課題点を見極め, 活動を修正し, 再度活動させる。 「答えは, 目標に合致しているか」 「答えは, 客観的なデータで裏付けられているか」 「答え(考え)に, 思い込みはないか」	
俯瞰的に振り返る		全ての活動を終えて全体を振り返る。		